

ずいそう

## 「目覚めよ地上の星たち」

中山 隆 義



建設業の社会に対する貢献度をもっとアピールし、建設業で働く人たちが誇りを持ち、若者に夢を与えられるようにしたい…。と最近強く思っています。「だけど、俺たちいなくなりゃ、ビルも道路もできやしねえ、誰もわかっちゃくれねえか」という歌詞がありました。建設業がなければどんな世の中になっているだろうと考えると、いろいろなことが見えてきます。道路（トンネル、橋）がなければ、目的地に行くために、大きく遠回りしたり、危険な箇所を命がけで通らねばならなくなります。急病人が出て救急車も来られません。ダムがなければ、飲料水や農業・工業用水の確保ができません。大雨が降ったときに洪水調節もできません。鉄道がなければ旅行にも行けないし、仕事やレジャーの行動範囲は狭まります。発電所がなければ、電気で動くすべての物はストップしてしまいます。港（空港）がなければ海外旅行にも行けないし、海外との輸出入にも影響がでます。地震等の災害時に被害を最小限にとどめ、いち早く復旧することもできません。（社会への貢献度は建設業が一番です）また、建設業には、自然や地形・地質条件にうまく適合した目的物（一品料理）を、安全に安く、周辺環境や人にやさしく作る事が求められています。また、違う目線で見ると、世の中で一番背の高いもの、一番深いもの、一番長いもの、一番広いもの、一番大きなものをつくるのも建設業です。それぞれに、スケールの大きい技術が詰まっています。地震に対して人の命や構造物をどのようにして守るか求められるのも建設技術です。（スケールが大きく、奥の深さでも建設技術が一番です）ここで、私が関係した仕事で、印象に残っているお話をしましょう。

①いろいろな思いを込めたダム工事；洪水調節用のダムを大和川の上流に作りました。それ以降、川の氾濫はなくなりました。新入生の時に作ったダムに20年後に洪水対策で出動しました。ダムの底水をポンプアップする仕事です。心配して飛んでくるヘリコプターや水道局の人に「大丈夫です。早く水を送ります」と手を振って答えました。コンクリートの混練からクレーンによる打設まで自動化するシステムの開発に取り組みました。12年（4現場）かか

り実用化できました。若いころクレーンの修理をしていた時に、地上30mで足を滑らし安全帯1本でぶら下がったことがあります。“命綱”に思わず「ありがとうございます」と叫びました。以後仲間にも心から使用を呼びかけています。

- ②住宅直下を発破なしで掘削したトンネル工事；明石海峡大橋の神戸側アクセストンネル（住宅直下15m）を、TBM（トンネルボーリングマシン）と割岩工法で騒音・振動を最小限に抑えて掘削しました。TBM掘削時の苦情に対して住宅の玄関に座り（人質になりながら）、住民の方に「1日に10m進みますから3日辛抱してください」とお願いしました。今は、あっという間に通り過ぎ淡路島ですが…。
- ③地震で傾いたマンションを元どおりにした工事；阪神淡路大震災で傾いた5階建のマンションを住民の生活を維持しながらジャッキアップし、基礎を補強して元どおりに復旧する工事をしました。一日でも早く住民の方が安心できるよう必死で取り組みました。
- ④山の神様にお願いしたトンネル工事；TBM工事で使う安全で施工しやすい支保工や掘削しながら地質を自動判定するシステムを考えて崩落災害を防ぎ、掘進記録も樹立しました。しかしTBMが地圧で拘束された時、トンネルに入る前に坑口で毎朝“山の神様”にお願いしました。（自然に畏敬の念を持ち謙虚にトライした時、道が開けました）

皆さんもたくさんこのような経験をされたことと思います。建設業は自然や人を相手にしながら、いろいろな技術を使って人に役立つものを作る仕事です。その中で自己の向上・実現を図れるすばらしい仕事です。もっと誇りを持ちアピールしてよいと思います。

中島みゆきさんは、紅白で黒部川発電所から歌われましたが、きっと本当の“地上の星たちの仕事”に接して感動されたと思います。皆さんの一人一人が地上の星です。“目覚めよ地上の星たち、そして誇りを持って伝えよ次の世代に”思い込みが強いずいそうになりましたが、みなさんいっしょにがんばりましょう!!!